

# 岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成22年11月30日現在

## 今月の重点活動

### ”実りの秋”各地で消費者交流を開催！食育、ぎふクリーンを啓発！

**瑞穂市柿振興会**では、11月13日、「学習園」にて小学5・6年生を対象に収穫体験を行った。教育委員会を通して市内小学校に募集し17組54人の参加があった。当日は、富有柿と瑞穂の特産品の学習を行い、生産者が行う家庭選果を体験した。



説明を聞き親子で選別(瑞穂)

**真正柿振興会**では、11月21日、贈答柿の購入者等を招待し、柿狩りを実施した。農業普及課ではクリーン農業等PR活動を行った。



柿狩りでぎふクリーンPR(真正)

**糸貫柿振興会**では、11月23日、名古屋市等の消費者(大手量販店と連携)を招いて消費者交流を実施した。当日は、親子等30組が参加し、選果場見学、収穫体験が行われた。

**J A ぎふ大根部会**では、11月21日と29日に親子で守口大根収穫体験イベントを開催した。21日は漬物業者との共催で25組97名が参加。29日は「幼児食農教育実践モデル園(県指定)」の幼稚園児等151名とその親御さんの参加で実施された。一人2本の収穫や「長さ比べ」など歓声が絶えないイベントとなった。



幼稚園児等の収穫体験

農業普及課では、食育、ぎふクリーン、伝統野菜について啓発した。

## 主要農作物の生産振興

### ■ふるさとのじまん農産物づくり(アスパラガス)

#### 来年の春芽に期待！冬季のアスパラガス管理を徹底！

11月18日に岐阜市中心に、アスパラガスの春芽発生促進のため、冬季の休眠に向けた栽培管理の徹底を目的に栽培講習会を開催した。講習会では、生産者12名を対象にこれからの養分蓄積、茎葉刈り取り、春芽に向けた土作り等について指導した。



栽培講習会風景(岐阜市)

岐阜市近郊は収穫をスタートさせて1~2年目のほ場が多く、来年、4~5月の春芽の出荷量は徐々に増えつつある。羽島市では同様の栽培講習会を28日に開催した。

このように農業普及課ではさらにハウス栽培を推進し、産地振興を支援していく。

### ■麦 播種作業終わる

麦の播種作業は10月末の降雨でやや遅れたものの11月3日から始まり、以後は順調に進んだ。「農林61号」については11月18日に播種が終了し、「タマイズミ」についてもほぼ終了した。

農林61号	137ha
タマイズミ	154ha
ミノリムキ	31ha
計	322ha

播種面積は右表のとおりである。農業普及課では、排水対策の徹底を指導した。

### ■大豆 生育良好、まもなく収穫開始

11月に入って気温が下がり落葉が急速に進んでいる。今年はハスモンヨトウの発生が多く平年に比べて葉の食害が目立ったが、防除啓発を行い被害の拡大を治めることができた。莢付きについては良好で収量も期待でき収穫は12月上旬から始まる予定である。

### ■いちご いちご収穫始まる

今年度のいちごの出荷が11月上旬より始まった。夜冷育苗は、例年と変わりなく出荷が始まったが、普通ポット育苗は、残暑が長引き花芽分化が遅れたため11月下旬から始まった。



若手・新人研修会

### 若手が主役の交流ネットワークが広がる

新規就農者と若手生産者が増えたことから、県及び県園芸特産振興会いちご部会と共催でいちご若手・新人研修会と交流会を開催された。これからの岐阜県のいちごを担っていく若手の農業者のネットワークが広がることを期待したい。また、J A ぎふ岐阜市いちご部会では青年部が立上がり、定期的に会合を開催する予定である。



青年部会合

### ■えだまめ 出荷終了

11月12日に今年産の出荷終了を控えて生産販売反省会が開催された。今年は、春先の低温、夏場の猛暑等から計画出荷量は下回った結果となった。会議では、次年度対

策として9月以降の出荷量拡大等が確認された。JAぎふの出荷は11月18日に終了した。抑制栽培については、販売環境を考慮しながら、次年度以降も実証検討していく。

### ■ブロッコリー 出荷開始

11月2日に統一目揃え会が開催され、本格的な出荷は始まった。その後、中生品種を対象とした目揃え会が11月12・15日に開催された。引き続きの高温による病害虫対策(害虫被害の長期化、細菌病発生)にも注意するよう指導した。出荷は10月下旬～2月まで続き12月にピークを迎える。

### ■にんにく 植付け行われる

根尾地区で9月下旬～10月上旬にかけて岐阜市、山口市では10月中旬から11月中旬に定植作業が行われた。JAぎふにんにく部会(岐阜市)では、22日にほ場巡回、29日に栽培研修会を開催し、これまでの高温に伴う病害対策を指導した。

### ■柿 富有柿の出荷がピークに！

岐阜管内の柿産地では主力品種の「富有」の出荷が11月7日から始まった。春先の低温や夏から秋への高温・干ばつ等の影響で、11月末日現在で各産地とも計画に対して5割程度の出荷進捗である。階級もL中心と前年度より1階級低い大きさに推移している。出荷量も少ないことから、単価は前年の2～3倍で推移している。

28日頃出荷ピークとなり12月上旬に終了予定である。

### 出荷を待つ袋柿！「果宝柿」も希少価値高まる！

糸貫柿振興会では富有柿の袋掛けが8月下旬から9月末までに行われ、12月9日から始まる出荷を待っている。今年は天候等の影響から、袋掛けの数量は前年比70%程度と少ない見込で、着色も遅れている状況である。今年の「果宝柿」は希少価値が高まる。

### ■鉢花 LEDランプ試験

LEDランプ(波長630nm)の花芽分化抑制、わい化効果を確認するため農業技術センターの協力を得て、照射試験区を設置(11/10)した。対照区を波長660nmランプ区、無照射区とした。今後、生育・開花状況について調査を実施する。今年は、管内4戸の農家効果確認を行うこととしており、普及課としても導入に向けた情報収集を行う。



粒揃いの柿が選果される



袋掛けされた柿

## 担い手の育成・確保

### ■指導農業士 経営訪問研修を開催

岐阜地区指導農業士連絡協議会は、11月9日に会員の経営を視察し自らの経営に役立てるため、経営訪問研修を行った。

今年度新たに認定された指導農業士の中で、2人の経営内容を視察し、さらに農業技術センターにおいて、花き・野菜の新技术の取り組みについて視察した。資材高騰などにより経営が厳しい中での経営改善の取り組みに、出席者は熱心に質問し意見交換が行われた。



花き経営の訪問風景

### ■女性農業経営アドバイザー

#### 男女共同参画推進について意見交換

11月10日、岐阜市選出の女性市議会議員と農業における男女共同参画について、岐阜ブロックの三役と女性農業員(瑞穂市・本巣市)、岐阜市女性農業経営アドバイザー等15名で意見交換を行った。女性の役職登用等に対する現状や取り巻く環境について、また、今後に向けた活動等活発な意見が出た。



意見交換会様子

## 地域の動き等

### ■本巣市 本巣地域耕作放棄地解消活動

11月16日に本巣市根尾能郷で耕作放棄地解消のための除草作業を企業、農機具メーカー、地元農家、JAぎふ、本巣市、県関係機関の参加で実施された。この活動は、県が進める放棄地解消対策「農地イキイキ週間」の一環で実施されたもので、24日以降に耕作放棄地解消活動(根尾)農機具メーカーにより耕起されて畑に戻る予定。次年度に農業参入企業により野菜の作付が行われる予定。農業普及課では、作付品目計画や技術等の支援を行っている。

